

神戸医療福祉専門学校三田校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和元年7月20日 13:00-15:00 実施】

平成30年度自己点検自己評価(平成30年4月1日～平成31年3月31日)による

評価委員集計

項目	点検項目	評価		自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1		
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	4		学校運営にあたり、最も大切にしていることが、ミッションと教育理念である。これを基に、作成している事業計画があるからこそ、健全な学校運営が実現可能となる。事業計画で考える中期計画は、学校の未来を表現したものであり、そこで考えられた組織目的、運営方針、実行方針、実行計画が学校の成長につながっている。今後さらなる工夫と努力が必要である。	『キャリア教育』についても、今までの人間教育を更に発展させるべく、教職員に研修の機会を設け、学生それぞれが、『キャリア設計』を実現できるよう取り組んでいる。 業界の将来的展望に伴う、職域拡大等への対応できる人材の育成に取り組む。	4		●しっかりしたミッションと教育理念のもと、貴校での教育が進められていることに敬服いたします ●時代背景に合った、その年々の方針・計画をお願いいたします ●理念を基に計画づくりがなされており、学生の教育が適切に行われている。 ●人としての育成が大切だと常に思っています。人間教育をよろしく願います。
	1-1-2 育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか							
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか							
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか							
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4		法人としては、事業計画・運営方針を定めることを重要視している。その意識で毎年、業界のニーズに対応した事業計画・運営方針を作成するように努め、明文化された事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての教職員が理解した上で各業務に取り組んでいる。	事業計画の構成①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的)②運営方針(中期的に組織として目指す方針)③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現する為の単年度の方針)④定量目標(入学者・教育成果(中退防止・国家試験合格数・就職率等)⑤定性目標(人材育成や組織のあり方等単年度目標)⑥実行計画(その方針を実現させる為の具体的な計画)⑦組織図⑧職務分掌⑨部署ごとの計画・スケジュール⑩意思決定システム⑪収支予算書(5ヵ年)	4		●これからの学校での教育におきまして7-1の情報にシステム化に力を入れていただきたい。 ●学生教育に必要な計画・体制作り・計画実行の評価が適切に運営されている。 ●今後もオープンキャンパスを積極的に行っていただきたいです。 ●情報(システム化)に関しては個人情報問題もあり、大変だと思いますが、必要なことであると思います。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4		計画を具体化していくためにはその計画が構成メンバーに周知され、理解されているかが重要なポイントとなるので、教職員研修、会議(運営会議・学科会議・各課会議等)日常会話を通じて、全教員が学校運営に携わる環境作りを目指している。このことが、学校・学科の教育成果に繋がると考えている。	組織的に計画を遂行し、進捗状況を把握し、逐次見直しを行っている。 また各学科・各セクションごとの事業計画を作成し、事業計画発表会を実施している。			
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4		意思決定システムは確立されているが、さらに教職員がそれぞれスキルアップを図り、意思決定できる様底上げをしていきたい。 勤怠管理システムの導入により、職員の労働状態の管理に努めている	理念・原理原則に沿った意思決定ができるよう、研修を実施している。			
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか							
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか							
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4		問題解決サイクル(問題発見⇒問題分析+仮説立案⇒対策立案⇒実行⇒検証)を回していることが意思決定プロセスを効果的に活用できているため学校運営が円滑に進んでいるが、個人レベルでの今後更なるスキルアップが必要である。	目標到達の運営指標を定め、会議内での運営数字チェックを定例化しているので数字からの問題発見が可能である。				
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4		学校セクション毎の情報システム化、学生の情報の一元管理、その結果としての業務の効率化が推進されている。しかし、大切なのは、学生一人ひとりの情報(入学前、在籍中、卒業)を一元管理することにより、学生への様々な支援(学費相談、就職支援等)の際に、その情報を活かし、適切な助言をし、業界就職への内定獲得や資格合格に結びつけている。 学生及び職員のリスク管理のシステムを構築しを目指している。	今後は学内のシステムによる業務の効率化だけではなくインターネットを利用した学生や卒業生との双方向サービスの充実が重要となる。就職情報の共有やサポート、国家試験対策など効果的、効率的なサポートシステムの構築を目指している。 (出欠管理システム・就職情報・国家試験対策webシステム)				

項目	点検項目	評価		自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1		
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	業界の求める人材育成のため、到達目標を明確にし、教育をフローで考え、専門職業教育とキャリア教育を行っている。	「職業人教育を通して社会に貢献していくこと」をミッションに、業界の情報・連携を非常勤講師依頼、臨床実習等をとおして行っている。 また、資格取得を目指す学科に於ては学園グループ内の組織である「国家試験対策センター」の指導の下、担当教員の研修に留まらず、取得の意義や取得指導などが計画的に行われる支援体制を整備している。	4			●義肢装具士にもコミュニケーション能力が必要となっています。コミュニケーション能力をつける授業は難しいとは思いますが、力を入れてほしい。(川端さま) ●多様で個性の強い人材が増えているように感じます。そのような学生でも明確にSTEPを上げられるような課程を作れていると思います。(正木さま) ●大学と違い、到達目標を明確にし、実績をアピールすることで、大学に負けないよう今後も頑張ってください。(中村さま)
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか		入学後のオリエンテーションにおいて資格取得の必要性を説明している。教科科目ごとに到達目標を明確化するために、シラバスを作成し学生に学期はじめに配布し周知徹底している。	専任教員・非常勤教員ともシラバス、及び講義内容の検討を踏まえ絶えずコミュニケーションが取れる体制をしている。アクティブラーニング、ICTなど、より質の高い教授方法、カリキュラムの運動性を模索している。				
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	毎年度、各学科の事業計画の中で、教育目標や業界が求める人材像の見直しと確認を行っている。	それぞれの学科において、常に専任教員・非常勤教員と教育到達レベルを明確にし、その教育到達レベルを達成させ、その度合いを評価するための科目、イベント等の計画とその確認を実施している。	3.17			●今後、授業評価がしっかりフィードバックされ、活用されることを期待しています。 ●業界のニーズは色々あるとは思いますが、その会社各社のニーズに合った学生を送り込んでいただきたい。(すぐこまかく難しいとは思いますが) ●専門分野のみならず、広く社会の(他の分野の)職業の体験から、自分の役割や目標を考えさせる機会があっても良いのではないかと。 ●視野拡大のため、地域活動との連携、継続も図ることが大切ではないかと思った。
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか		業界ニーズに基づいた人材育成を行うため、常に業界の変化に対応するような情報共有を行っている。	各業界からの専門職講師指導を中心に、臨床指導者会議・臨床実習訪問・卒後研修・講師会議・就職説明会などを通じて、タイムリーな情報の共有に努力する。				
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか		対人援助職としての技術、知識及び人間性を高めるため、早期年次からの見学実習や、学外実習へ向けての患者モデルによる学内実習など多彩な実践形式の講義を実施。「専門職業教育」と「キャリア教育」を実践している。	働くための知識技術と社会で生きていくための人間力を踏まえたキャリア教育の充実が求められる。入学前から卒業後に至るまで、フローでのキャリア教育構築を目指す。				
	3-9-4 授業評価を実施しているか		授業評価が十分、機能化していなかった。	内容の緻密な検討を行い、より質の高い授業展開が出来る評価内容を早急に検討し常に講師との連携を深めフィードバックできる環境に持っていく。				
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	成績評価や単位認定の明確な規定が学則や内規により明文化されており、教員・学生ともに周知されている。これまで問題なく運用されている。進級判定会議及び卒業判定会議を開き、議事録も記載保存している。	履修規定は各学期の開始時に、新入生・在校生オリエンテーションで学生に周知している。	3.83			●出来るだけ早くに業界での仕事のあり方、かかわり方など学生にわからせてあげると学校での勉強にも変化が出ると思います。各学科の地域とのかかわりは、非常に評価できる。 ●将来かかわる分野に学生のうちから接する事も大きな刺激とはげみになるだろう。 ●三田社協との連携のみならず三田市との各々部署との連携を導いていただければ、と思います。学生さんの、先生の活動の機会が多岐にあるように感じます。
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	年に一度、卒業研究発表会、卒業制作展示会、選手権の参加等を行っている。	特に地域性の高い貢献事業を中心に行う(介護予防・三田市内事業)				
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	資格取得のサポート体制としては平常授業のみならず国家試験対策講座を実施し、自宅学習支援や国家試験対策問題を活用できる環境を整えている。また学力不足の学生に対しては個別面談から補講まで様々な取り組みを実施している。	滋慶学園グループのスケールメリットを活かし、国家試験対策センターの集約のもと、全国のグループ校が持つノウハウを共有し国家試験対策を講じている。また、国家試験対策研修を行うことで担当する教員のスキルアップに努めている。	3.83			●資格・免許だけでなく、その先を見据えた教育課程をお願いしたい。 ●何も問題はありません。 ●多岐にあるように感じます。 ●学力がある学生でも国家試験に落ちることもあるので、(学力のある学生に危機感を持たせる為に)安心させないような工夫も必要であると思います。
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか		定期的に模擬試験を実施し、成績のデータ化、蓄積による分析結果に基づいた受験対策の実施。学生の到達度に応じて授業外での補習などの個別対応の実施。 e-learningを活用した学習環境の整備。	全員合格を目指す為に、国家試験対策委員会等学科を越えた方法論の共有化を行っている。「専門職業教育」と「キャリア教育」フローで行う教育の構築を目指す。不合格者対応としても組織全体で体系的に行っている。				
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	学科の到達目標を達成するために、講師がその分野のスペシャリストであり、また、同時に教員要件を満たしている事が採用条件である。講師は学園の方針、養成したい学生像を理解し、情報の共有や問題解決につなげている。	講義を行う者は、その業界の現状に則した内容を教授できる事を大切にしている。現在実技科目の外部講師は、臨床現場で活躍されている人である。	3.83			●何も問題ありません。 ●市内の専門職に係る部署の先生の知識、技術を教示願う機会を作ってもらえたら、と思った。
	3-12-2 教員の資質への取り組みを行っているか		それぞれの教員は、専門の業界団体、学会に加入しており、それらの主催する学術大会、セミナー等への参加を奨励している。また、教育者としての専門性の向上においては、上記のFD活動は基より、学園グループ、神戸滋慶学園内での様々なレベルでの研修会を実施している。	他学科の情報を共有することにより、学科横断的な知識を得、連携教育に生かしていくことを目標とする。				
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	各学科会議を中心に常に教員間の情報の共有化を図っている。		卒業生の教員体制を強化していき、三田校マインドの伝承を行っていきたい。					

項目	点検項目	評価		自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1		
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3		開校以来、それぞれの学科の専門領域の就職・内定100%のために就職支援・指導を徹底し教職員一丸となって取り組んでいる。組織としてキャリアセンターを設置し、教務との連携をはかり、業界の動向などを把握し、求人獲得、学生の内定を勝ち取るためのシステムを構築している。	卒業年次を担当する教員が、早期に学生一人ひとりの進路を把握するための面談を実施している。就職率の向上には、外部施設での実習やインターンシップが有効と考え実施している。	3.67		●就職率を上げるためにOB訪問などの期間を設けるなど考えていただきたい。 ●問題ないと思われる。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3		国家試験に対しては常に合格率100%を目標としている。免許取得に対する必要性を入学後のオリエンテーションで説明している。	滋慶学園グループ校の同分野で構成される教育部会を設置し、資格試験100%合格のための仕組み作りに全力を注いでいる。また、国家試験対策センターを中心に、次年度への更なる合格率向上を目標として、毎年国家試験受験対策に関する総括を実施している。	3.5		●合格率100%をがんばってください。 ●一部合格率の低い科があり、今後の向上が期待される。 ●モチベーション・意欲など単純な考え方ですが、持続を高めていくこと。科目内容も多く、深いものを要求されているお仕事だと思います。専門性を自負した学びがあれば…。 ●合格率の向上は急務だと思います。再試験組を含めて十分な勉強体制を作っていく必要があると思います。
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3		卒業生の活躍は就職先からの評価や役職への登用が増えてきていること、実習指導の出来る卒業生の増加などから評価できると考える。今後、卒業生のみならず在校生においてもさらなる活躍が期待できる場を作り、広げていく取り組みが必要である。	常に、各学科の業界の方々と連携を図り、業界の求める人材育成に努めている。卒業生に対し同窓会活動として、卒業研修会を実施している。	3.5		●業界内での様々なポストにおいて活躍できていると思います。 ●適切な卒業生との関係作りがなされている。
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4		学生支援の中でも就職支援に関しては就職率からも成功している部分と思われる。今後は面接指導の際に業界からの意見(求められる人材像)を今以上に反映できるような方策を検討したい。	リハ職種・義肢装具士科・整形靴学科に於ては、学生の就職支援として企業説明会を学内で実施している。	4		●学生一人一人のモチベーションを上げ、常に100%卒業、とはいかないと思います。 ●学問と社会性を身につけるに必要な環境や取組みが適切に整えられている。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3		中途退学率は増加傾向にあるため、カウンセラーの活用、生活習慣の指導を含めた学生支援などのバックアップ体制をさらに強化する必要があると考える。	滋慶学園グループが独自に開発整備した学生サポートアンケートを実施し、問題を持つ学生を早期に発見し対応することで中途退学防止へつなげている。滋慶学園グループは独自のカウンセリング研修を設けており、全教職員がカウンセリングマインドを持って、学生に対応できるよう研修を受け、資格を取得している。また、教員では対応できないような事象については、カウンセラーの配置と近隣の心療内科と連携をしており、緊急事態においても対応できるようにしている。学生問題の多様性、個性性によるより一層の教員研修の必要性を感じている(合理的配慮等)	3.5		
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4		スチューデントサービスセンターを設置し、メンタル面・経済的な問題・健康面などの相談を各所で受け入れる体制を整備し、有効に機能させている。日常的には学内の専門カウンセラー(顧問)と教職員がチームとしてアプローチし、問題の解決にあたっている。	学費支援システム・特待生選抜制度・在校生援助奨学金など完備している。健康診断をはじめ、環境衛生委員会を中心に、感染予防にも努めている。寮長との連携の下、情報交換を行っている。学生の事故及び問題に関しても、インシデントと捉え原因の分析・予防対策を考えている。	4		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか							
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4		学生の経済的側面の支援は、事務局による個別相談の実施によって、事前に学費相談を受けられ、資金のやり繰りをアドバイスできている。いずれも担任と連携を取り、学生の変化に気を配り注意している。	学内での状況を一番把握しているクラス担任を中心に保護者への連絡や報告、相談を密に行える体制・雰囲気を作るために入学前の学校説明会や入学式後に学校代表、学科代表、教職員に紹介などの場を設けている。	4		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか							
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか							
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか							
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4		本校のミッションである職業人教育や就職、また学生の資格取得実現のためには学校だけでなく家庭を中心とした学校外での学生動向も把握するように努め、問題解決にあたり、保護者との連携の強化を図っている。		4			
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	4		各学科の同窓会委員を中心に、実施している。同窓会役員が主体となり学校側が支援する体制を整えている。	多職種連携ができるような学科を超えた、同窓会活動をめざす。卒業生・業界対象の講演会、研修会、勉強会が行われている。	4			
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか								
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか								

項目	点検項目	評価		自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1		
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備教育用具を整備しているか	4		実習においては、実際の現場で使われている設備を備えていることが不可欠である。実学教育に力を入れている本校の設備、施設はかなり高いレベルで整備されていると考えている。	各学科とも、厚生労働省指定養成施設基準を満たしている。(リハビリテーション系学科は第3者評価を受けている。義肢装具士科はカテゴリー I 認定)	4		●設備は十分だと思いますが、新しいニーズに対応できるようにお願いします。 ●私は出来ませんが、海外で活躍できる学生が増えてほしいと思います。 ●適切に整えられている。
6 教育環境	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4		授業の一貫として学外実習を実施しており、実習先との打ち合わせから学生の実習前教育、報告会、評価方法に至る一連の流れをマニュアル化しており、実施体制は整備されている。また、海外研修を実施しており、建学の理念である「国際教育」を実践している。	海外研修先 オーストラリア:ラトロブ大学 香港:香港理工科大学 アメリカ:サウスウエスタン大学 ドイツ:オーストリア	4		●多様な学習の機会が与えられている。
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4		防災体制については、防火管理責任者を配置し、消防署の指導による年1回の防災計画作成と防災訓練を実施している。また、災害時に備え、学生、教職員の安否をメールで確認システムも構築している。	AEDの設置:毎月1回の定期点検を実施している。救急救命士科教員、学生による他学科学生への研修会の開催。	3.83		
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4		本校は兵庫県専修学校各種学校連合会に加盟し、募集開始時期、募集内容を遵守している。また、学校案内・募集要項をはじめとする資料、ホームページにおいても遵守したものとなっている。	説明会への参加は、複数回参加を促し、疑問がきちんと解消できるよう仕組みを構築している。また、早期出願者に対し、出願時のモチベーションを入学時まで維持できるよう「オープンキャンパス(入学前教育)」を実施している。	3.83		●入学前から本人の業界で働く意欲、適性が見極められている点が素晴らしい。また、経済的理由を抱えている受験生に対しても適切にアドバイスが行われている点が良い。 ●入学の定員われが言われていますが、卒業生に高等学校に行ってもらうとか、何か学校からのアプローチで、こんな職業の専門学校があるよ、とわかってもらえる工夫もありだと思います。 ●問題ないと考えます。 ●適性の見極めは非常に難しいと思います。在学中における人間教育に期待します。”対人援助”は特性も関係してくるようになります。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか							
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4		学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。また、選考終了後は選考会議により可否を確定する。面談結果、書類内容、選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、将来業界で働くことに適正があるかを総合的に判断している。	将来の希望分野への適正をきちんと見極めるため、面談の比重を多くしている。結果として学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。また、AO入試を導入し、学力に捉われず、キャリア教育の一環として、よりやる気を重視した学生確保にチャレンジしている			
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4		毎年、各学科において教科書、教材の見直しを行っており、諸費用の無駄な支出がないかチェックしている。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたつてのアドバイスを実施している。			
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか							
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について適正な取扱いを行っているか								
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4		厳しいチェック及び評価が行われ、中長期的に財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。 5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができ、財務基盤の安定につながっている。	指揮命令の系統が明確になっており、内部承認体制が確立されている。	4		●健全で安定した経営基盤があつてこそ、教職員の皆さんが貴校での生徒への指導に安心して、熱心に取り組める要因だと感服します。 ●適正に管理されています。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか							
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4		5年を見越した収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会でチェックするため現実に即した予算編成になっているものと考ええる。	予算→四半期予算実績対比→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。			
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか							
8-30-1 私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4		監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成している。監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。				

項目	点検項目	評価		自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1		
8 財務	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4		財務情報公開の体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	当法人の財務情報公開に関しては、常務理事が統括し、事務局長が責任者として担当する。また、事務担当者を置いて現場対応を行っている。 ＜公開書類＞ 1. 財産目録2. 貸借対照表3. 収支決算書4. 事業報告書5. 監査報告書			
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4		法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、整備されている。カリキュラムや教員要件はしっかりチェックし、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する研修を実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	4		<ul style="list-style-type: none"> ●特にありません。 ●学校運営に必要な調査・監査を適切に受けており、問題ないと考えます。また、情報公開においてもOPENになれています。 ●学校関係者評価者委員6人全員が揃ったことはないかと思うので、どうにかならないのでしょうか？6割を満たせば成立すると思うので、問題ないかとは思いますが……。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4		個人情報保護の体制はできている。個人情報保護の教職員への啓蒙として、年2回全教職員に対して研修を行っている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、ホームページ上に明記している。			
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4		自己評価・自己点検の結果、教育情報をホームページに掲載している。	下記HPアドレスにて情報公開している。 http://www.kmw.ac.jp/info/			
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか							
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか							
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか							
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか								
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4		職業教育を通して社会に貢献することが我々の使命であるが、卒業生や在校生本人のみならず、彼らを取り巻く社会環境や業界、さらには学校が存在する地域の信頼を得ながら、その役割を果たしてゆく。またキャリア教育の一環として挨拶の仕方、服装、髪型、言葉遣い等の指導を受け、ボランティアに参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・三田市障害福祉課、社会福祉協議会主催の認知予防教室、介護予防教室、障害者生活指導等の協力(理学療法士科・作業療法士科・言語聴覚士科) ・三田市社会福祉協議会主催「ともいき三田」へのボランティア参加 ・三田市内中高生・保育園、保育士に対する心肺蘇生法講習会(救急救命士科) ・義肢装具士科学生クラブによる、中古義足を整備し発展途上国へ送るボランティア活動 兵庫県専修学校各種学校協会主催による「トキメキ仕事体験」事業にて高校生のキャリア教育支援を実施 ・学校掲示板利用による、地域、施設ボランティアの促進 ・地域清掃活動への参加 等 	4		<ul style="list-style-type: none"> ●各学科の特徴を生かした地域貢献がなされていることに関心いたします。 ●特にありません。 ●今、気が付かなくとも国際的な視野・視点を経験させる事は学生にとって良い刺激になると考えます。 ●社会貢献の見える化で理解していく事が出来ます。 ●キャリア教育の一環としての位置づけで、今後も積極的に活動してほしいと思います。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか							
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか							